

第13回 直方市子ども・子育て会議 議事録

日時：平成30年11月26日（月）18時30分～20時45分

会場：直方市役所5階502会議室

出席者：船越委員（会長）

中川委員、石松委員、伊藤委員、瀬尾委員

芦谷委員、日野委員、野口委員、松村委員

事務局：こども育成課 熊井課長、松崎参事補、小南主任

関係者：（ニーズ調査業務委託業者）シーズ総合政策研究所 田嶋氏

《議題》

- 1) 直方市子ども・子育て支援事業計画の次期計画策定に向けた
ニーズ調査の調査票について

○事務局より調査票第1稿からの修正点等について資料をもとに説明後、質疑

委員)

- ・冒頭の説明文がわかりにくいとの指摘について、原文を直さないのであれば、第2期直方市子ども・子育て支援事業計画の語句の前後にかぎ括弧（「 」）をつけた方がよい。第1期の部分はつけてある。
- ・第1期の調査の結果がどのように役立ったのか。第1期での意見がどれだけ反映されたかわかる資料を出せば回収率も高まるのではないか。

事務局)

- ・表紙にあるあいさつの中で、前回のアンケートにより達成した内容を入れていければ良いかと考えている。何のためにアンケート調査を行うかここで示せるように検討し修正を行いたい。
- ・調査票の表紙の裏の「制度の趣旨・考え方」について難しい内容となっているが必要だと思うか。また、「用語の定義」をわかりやすくする必要があると思うがいかがか。

委員)

- ・「趣旨・考え方」は必要で削除すべきではないが、わかりやすい表現に直してもらえるようであれば良いと思う。
- ・多くの回答者はこの「用語の定義」は見ないのではないか。アンケートを進めていく中で“設問中の言葉がわからないので表紙まで戻って意味を確かめて回答する”という人が果たしてどれくらいいるのか、ということを考えるとそもそも入れる必要はあるのか。

事務局)

- ・「趣旨・考え方」「用語の定義」については、今ある程度で内容を精査したい。

委員)

- ・全体的に読んで理解することが必要な設問が多く、回答することが難しい家庭も多いと思う。
- ・そうした理解することが難しい家庭にこそ問題となる課題があると思う。
- ・そうした家庭向けにフリガナをつけるなどの対応も必要かと思う。
- ・回答者が読みやすいよう、漢字にフリガナをつけるか、もっとわかりやすい表現に変えた方が良い。
- ・知的障がいの方はこの調査票を最初見ただけで難しくなってしまう。例えば「皆様」を「みなさま」に「御」を「お」にするなど、ひらがなにすることで分かりやすくなる表現は変えてもらえると良い。
- ・市民のみなさんが参画できる調査という点で大事な意見ではあるが、印刷準備までに時間がないこともあるので、今回は難しいことかもしれない。この点は次回への申し送りとして残しておいてもらいたい。

事務局)

- ・承知しました。

委員)

- ・回収率を上げるため、調査票に「焼きスパマンの塗り絵をつけて、子どもの塗り絵も返信するとそれが役所などで展示される」などしたら良いのでは。
- ・この調査票の内容に対して「督促のハガキ」を出して費用対効果がでるのだろうか。
- ・前回の回収率はどの程度だったのか。
- ・他の自治体での取組みなどからいい方法はないか。
- ・「焼きスパマン」のイラストを最後に入れておくと良い。
- ・お願いチラシの中でアンケートに答えた結果どのような成果があったかを知らせることで、アンケートを答える人に“市が応える”という姿勢をみせることが大事である。

事務局)

- ・回収率を上げる策として、「お礼状兼督促状ハガキ」の送付や、前回のアンケート調査の結果から病児保育事業が実施できた、などの成果を示した「調査協力のお願いチラシ」を配布する予定にしている。
- ・「調査協力のお願いチラシ」については、市内保幼小を通じて保護者へ配布してもらうので郵送費はかからない。内容を検討して進めたい。
- ・塗り絵については良案だと思うが、今回は調査までの時間がないことから調整等難しいと思われる。
- ・前回は55%程度である。

事務局・委託業者)

- ・国の指針により設問数が多くなっており、どの自治体も苦慮している。回収率向上は同じく督促状の配布やペン・メモ帳などを調査票に同封して送付したり、内容の広報の充実などがある。

委員)

- ・「障がいのある子ども等」に対する設問の追加については、障がい児向けの設問をつくるのではなく、一般の子どもに対する設問に含めたかたちでノーマルなかたちとして反映してほしい。具体的には、「放課後の過ごし方」の設問の選択肢の中に「通所支援施設」を追加してほしい。
- ・この設問を設定する意図は何か。
- ・障がいのある子どもの定義がしっかりしていないと、この設問を回答する人が答えにくい。
- ・障がいの子を持たない保護者は分からないのではないか。
- ・障がい児に対する大まかな傾向を聞く必要があれば聞いた方が良い。
- ・障がいという点を含め、子育てが困難であるという点で「気軽に相談できる窓口があると良い」というニーズを聞くことは大事である。
- ・例えば、「身近な子育て支援の場所」の設問の選択肢に入れるとか、選択肢の中で内容を含めていくことが良いと思う。

事務局)

- ・市では発達障がい児等に対する相談、支援等の取組みを進めており、実態を把握したいところである。また、このような設問ではないが、障がい者福祉基本計画においても同様な調査が行なわれている。

事務局・委託業者)

- ・全体の抽出された回答者のうち障がいのある子どもの世帯が回答する割合は低く、母数が低い中で調査データは、信頼性の低い不明確な分析結果となる可能性が高い。

事務局)

- ・他の設問を見直し、選択肢の中へ反映するよう検討する。

委員)

- ・小学生用の「朝食について」の設問で修正した選択肢の「時々食べる」は、食べる回数がより少ないイメージになる感じがする。この表現で良いか。
- ・朝食の欠食は家庭環境等の様々な要因も考えられる。小学校などでの生活環境の実態を調べていることもあるのでは。
- ・各小学校で調べている。ほとんどの小学校では生活実態調査は実施していると思われる。
- ・前回調査との比較分析を行う設問であれば、同じ選択肢の内容にしなければ比較にならない。
- ・設問数も多いので小学校で実施しているのであれば削除する事も考えられると思うが。市がデータを集めて分析していかないと意味がない。今後の事を含め市が情報収集する協議が必要になる。
- ・各小学校間で情報提供をお願いしまとめることは大変であり、むしろ、本調査の中で一括で行った方が良い。
- ・基本的に本調査は設問数が多く、回答することが難しく、回収数を上げるのも厳しい。削れる設問があれば削った方が良い。
- ・アンケートに答えることで、その大事さに気づかされることもある。載せられる余地があるのなら載せた方が良いと思う。
- ・アンケートを回答する人もわかりやすい設問なので残した方が良い。設問内容は前回調査と同様に「時々食べない」が良いと思う。

事務局)

- ・前回と同じ選択肢で検討する。

委員)

- ・小学生用の設問で「学校がない日の起床時間」を聞くことは必要か。
- ・学校がない日まで必要ないのでは。この結果をみて何を評価するのか。平日だけで良いのでは。
- ・設問文に「平日」と入っているのに、(2)で「学校がない日」というのはわかりにくい。おそらくは夏休みだとかだろうが、そうであったとしても同じく聞く意味があるのか。

事務局)

- ・削除する。

委員)

- ・小学生用の設問の選択肢にある「小学校の先生」に対し「幼稚園教諭」となっていてすわりが悪い。「教諭」は「先生」にして統一した方がよいのでは。
- ・「教諭」となると肩書きになり対象が限定される。「先生」の方が広義で良いと思う。

事務局)

- ・「先生」に修正することで対応したい。

委員)

- ・設問構成の順番について、この設問構成で違和感のある人の意見をききたい。
- ・「教育保育」関係の間に「地域子育て支援事業」のワンクッションを入れる理由がわからない。「平日の教育保育」から「土日等の教育保育」の流れの方がわかりやすい。
- ・「土日」は大きな意味で子育て支援という趣旨ととらえ、この順番にしているのかと思う。
- ・回答者の目線で考えるべき。順番を変える方が良いという意見が多いがその方向で良いか。
- ・「平日」から「土日等」の流れで「地域の子育て」が続くと、その後続く「病気の対応」のすわりが悪くなる。

事務局)

- ・市民が回答しやすい視点で良い方向で整理できれば良いと考える。
- ・「放課後の過ごし方」の後に「地域の子育て」を入れる順番で修正する。

委員)

- ・「用語の定義」にある「放課後子ども教室」は「放課後学習」と同じものか。
- ・小学生の「放課後の過ごし方」の設問に「放課後子ども教室」とあるが「放課後学習」はいらないのか。
- ・「用語の定義」には「認可外保育施設」の説明が入っていない。

事務局)

- ・「放課後学習」は市の独自のもので「放課後子ども教室」とは異なる。
- ・市がおこなっている「放課後学習」へ修正したい。
- ・「用語の定義」については内容を精査したい。

委員)

- ・「保育料の無償化」に関する設問について、「～変更・追加したい～」といった部分が答えにくい。どうせなら、分けた方が良いのでは。
- ・目的が需要予測であれば、この設問の形式できくしかないと思う。
- ・例示があると回答がその内容に引っ張られる可能性があるのではない方が良い。
- ・「通所支援施設」を選択肢に入れてほしい。
- ・選択肢に「習い事を始める・増やす」という表現が入っているがどうか。「習い事」だけでまとめるのではなく、「子どもの他の教育へ回す」「家族の余暇を過ごす」などにした方が良いのでは。

事務局・委託業者)

- ・本問が無償化による他の子育て施設への流動化を分析することが趣旨であれば、「習い事～」の選択肢は設問にそぐわないと考える。

事務局)

- ・「例示なし」とし、「通所支援施設」は追加し、「習い事～」の選択肢は削除する。

委員)

- ・「子育て支援センターとファミリー・サポート・センターの利用について」の設問で、両方を利用している場合、それぞれに考え方が違う時どうなるのか、書き方がわからない。
- ・2つを分けて設問設定をお願いしたい。

事務局)

- ・それぞれに回答できるよう修正する。

委員)

- ・「園庭の開放」は私立も入っているのか。私立ではほとんど開放はされていないと思うので誤解を与える可能性がある。
- ・「子育て支援として開放している」ケースもあり、「知っている」という回答がわかりにくいかもしれない。

事務局)

- ・どの程度やっているのか把握し検討したい。やっている園が少ないのであれば削除の方向で検討する。または、表現を変える、注釈をつけるなどし、わかりやすい表記を検討する。

委員)

- ・小学校区に名称誤りがある。
- ・表記が他の設問と統一されていない箇所がある。
- ・選択肢の番号に誤りがある（連番になっていない）。

事務局)

- ・ご指摘の部分について修正する。

事務局)

- ・今回の意見を踏まえ修正案を作成し、各委員へ配布し確認をお願いしたい。
- ・次回会議はアンケート実施後の調査報告として2月をめぐりに実施したい。

閉会